

山口県一の坂川におけるホタル護岸の整備と地域振興

○ 地域課題: 治水、減少したホタルの復活、地域振興

◇ 活用した自然環境の機能: 地域振興(空間形成、景観形成、地域コミュニティ))
環境(生物の生息空間の創出)

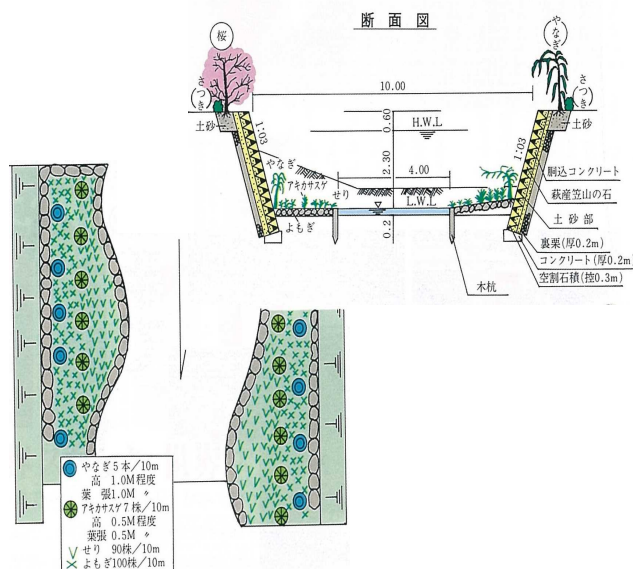
☆ 連携する関係者

: 山口県(河川管理者)、地域住民
周辺企業等

○山口県一の坂川では、戦後の水質汚染によりホタルの発生数が減少。昭和46年の台風19号による被害への対応を受けた河川改修の際に、生物や景観に配慮した護岸(ホタル護岸)を整備。
○昭和62年からは、地域小・中学校によるホタルの飼育と放流の取組が始まり、地域活動として定着。現在は、ゲンジボタル発生地として県の観光スポットの一つになっている。

一の坂川の護岸(通称 ホタル護岸)

子どもたちが育てたホタル幼虫の放流



<一の坂川周辺地区は、多くの観光客でにぎわっている>



* 一の坂川は流域面積10.5km²、流路延長5.3kmと比較的小規模な河川。
一の坂川は古く室町時代に大内氏が京の都を流れる鴨川に見立てて町割りをを行ったといわれており、歴史的由緒のある河川である。